

PROGRAM NOTE

「せっかくアマゾン河まで来たのだから、サンパウロまで足を伸ばそう。」

「せっかくアマゾン河まで来たのだから、サンパウロまで足を伸ばそう。」いきなり針路を南に向けた小林伸吉さん。胸にある思いを秘めていたのです。それは、50年前に家族移住してブラジルに渡ったまま音信不通になっている浜松高校の同級生をさがしだすことでした。手がかりといえば、本人の名前と50年前にもらった手紙が一通あるだけ。広大な新天地ブラジルに移住した百万という日本人の中から探し出すという「宿題」に果たして答えは出るのでしょうか。



とりあえず、サンパウロ市内に入ると、小林さんはすぐに県人会事務所や在ブラジル日系人の集会所などを歩きまわりました。しかし、どこでも「資料がそれだけでは無理ですよ。」といわれ、ある日系新聞社が「自分たちの使命でもあるので、無料広告を出してあげますよ。」と協力を申しこんぐれただけ。あてもなく歩きながら、たまたま出会ったひとりの高齢者に話しかけると、「この通りの向こうに全ブラジル老人会連盟事務局のサロンがあるから」と教えてくれました。その人がこれまた偶然にも連盟の副会長さんでした。早速、みずから資料をめくり、いろいろな人たちに声をかけて、消息をたどっていくうちに「たしかにそういう人がいた」ということがわかり、偶然に偶然が重なって、翌日の夕方には本人の弟が近くで自動車修理工場を経営しているここまで判明したのです。早速、そこをたずね事情を話すと「間違いありません。私の兄です。すぐ連絡します。」

こうして、小林さんの長年の願いがかなって浜松の級友と半世紀ぶりの再会。お互いに肩をだきあって「ああだったね。こうだったね。」と、時間を忘れ、場所を飛びこえての楽しい語らいのひとときを過ごすことができました。別れ際に「ブラジルまでよく来てくれた」と感謝された小林さん、「ほんとうに来てよかったです」と、今もしみじみ述懐しています。(2011年3月5日放送)

年老いた農夫が、もう長年音信が途絶えていた兄が発作を起こして倒れたため、急速たずねていくことを決意します。しかし、本人は視力も弱く松葉杖。娘は身体障害者なので車の運転ができない。そこで、自家用につかっているエンジン付き草刈機に乗って米国アイオワ州の村をひとりで出発。ウイスコンシン州の兄の家までの260マイル(東京日本橋から三重県鈴鹿市まで)を6週間かかって旅をします。途中、満天の

ブラジル連邦共和国、

ブラジルれんぽうきょうわこく、ポルトガル語でRepública Federativa do Brasil, 通称ブラジルは、南アメリカに位置する連邦共和制国家である。南米大陸で最大の面積を誇り、ウルグアイ、アルゼンチン、パラグアイ、ボリビア、ペルー、コロンビア、ベネズエラ、ガイアナ、スリナム、フランス領ギアナ(つまりチリとエクアドル以外の全ての南米諸国)と国境を接している。



公用語	ポルトガル語
首都	ブラジリア
最大の都市	サンパウロ
面積	8,511,965 km ²
人口 総計 (2010年)	193,734,000人

Source: Wikipedia

星を仰いで野宿したり、納屋で一夜を明かしたり、親切な家族に世話をなったりしながらやっと兄の家にたどり着きました。家から弱々しい足どりで出てきた兄は、弟と草刈機をみて、「おまえ、ひとりで来たのか、これで！？」「うん、兄さんに会いたかったんだ。」ふたりはじっと見つめ合い、手をとりあって立ったままでした。これは、1994年に制作されたデズニー映画 The Straight Story (アリビン・ストレイト物語) の感動的なエンディングです。

聖書には、主イエスが弟子たちに話された譬えがたびたび出てきますが、そのひとつに「失った銀貨」の話しがあります。十枚の銀貨を持っていた女が、その中の一枚を失ったとき、家中を掃除してさがし出し、友達といっしょに喜ぶといいう譬えです。銀貨十枚というのは当時のパレスチナでは既婚女性のしるしとしての銀の鎖につけた髪飾りで結婚指輪と同じ意味をもっていたのです。それだけに、ついにそれが手にもどったとき、どんなにうれしかったかが想像できます。神もそれと同じだ、と主イエスはいわれたのです。神は全世界のひとりでも失われることなく、神の愛と恵みのうちにつながっていてほしいというおもいから、隅から隅までを追い求めて探し出そうとしておられるのです。「私は失われたものを捜して救うために来たのだ」これが、主イエスのいのちをかけての使命であり、また喜びでもあったのです。「なくなっていたのが見つかったのだから、

楽しんで喜ぶのは当然ではないか。（ルカの福音書15：32）」という言葉で譬え話は終っています。

近年、日本は崩壊の時代に入り、人も世の中も信用できないといわれます。そのため、だんだん自分のことだけを考えるようになり、ついに、人との関わりあいを避ける「無縁社会」になってしまいます傾向にあります。そうなれば、それこそ生きる喜びとも無縁になってしまうでしょう。そうならないために、自分のまわりの人々とは、必要に応じてお互いに手を差し伸べ、足で動き、心を通わせることができるように環境づくりをしておくことが必要ではないでしょうか。人は生きるのではなく、生かされている存在であることを忘れてはなりません。

日本語放送担当

尾崎一夫



『サタデー・トーク』

きき手 尾崎一夫

毎週土曜日放送

3月 5日 大河アマゾン下り（ブラジル篇）小林伸吉

3月12日 インドのハムフェスト2010 大武謹伯

3月19日 「BCラジオに望む」 JSWC湘南ミーティングより

3月26日 水内正浩さんのラジオルーム 岩沙一彦

『バイブル・トーク』

東京淀橋教会 峯野龍弘主管牧師

毎週日曜日放送

3月 6日

人生の道しるべ

3月13日

(旧約聖書箴言ソロモン王の知恵より)

3月20日

3月27日

放送後の番組は、ホームページ (<http://japanese.hcjb.org>) のトップページ左側メニューにある『インターネット放送』のリンクページからお聴きいただけます。（mp3形式）

放送時間：日本時間午前7時半～8時

（米国アリゾナ制作／オーストラリア送信）

放送周波数： 15525kHz 19mb式

HCJB 日本語放送

新住所：HCJB（日本語放送）1517 N WILMOT RD #298 TUCSON AZ 85712 USA